



名古屋市北区の国道 41 号線は車道と歩道の見分けがつかないほど冠水していた=9 月 8 日午後 4 時 20 分頃、筆者撮影

# 名古屋で記録的大雨 東海豪雨以来の教訓は生かされたか

千葉や北陸などで水害が相次ぐ中、9 月 8 日に名古屋でも記録的大雨が降った。幸い死者は出なかったが、愛知県内で軽傷 38 人、住家被害は一部損壊 5 棟、床上浸水 226 棟、床下浸水 309 棟の被害があった（9 月 14 日までの愛知県まとめ）。2000 年に東海地方で死者 10 人を出した東海豪雨以来の教訓は生かされたのだろうか。

## ◆ 時間雨量は東海豪雨超えるも総雨量は半分 ◆

この日は私自身も名古屋の官庁街での取材を終えた後に叩きつけるような雨に見舞われ、冠水した道路で足首まで水に浸かって帰宅する経験をした。その前後の 1 時間降水量は 104.5 ミリで、東海豪雨時の 97 ミリを上回って観測史上最多。私は東海豪雨を三重県四日市市で経験したが、確かに当時のような体感だった。

ただ、雨雲はその後、早めに南西から北東へ抜けていった。私は自宅のパソコンで国交省の「川の防災情報」の水位グラフやカメラ映像を見続け、午後 6 時前に庄内川支流の矢田川・瀬古観測所で「氾濫発生水位」を越えたものの、急上昇はせずに 30 分ほどでピークを打って水位が減る様子などを確認した。



「レベル 5 氾濫特別警報」が出された庄内川の支流・矢田川の瀬古観測所近くはギリギリで越水を免れた=9 月 9 日午前 6 時半頃、筆者撮影